**評価機関**

**＜別紙１＞**

**第三者評価結果報告書**

1. 第三者評価機関名

|  |
| --- |
| 株式会社　評価基準研究所 |

1. 施設・事業所情報

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 名称：木下の保育園　江ヶ崎 | | 種別：認可保育所 | |
| 代表者氏名：吉田　愛花 | | 定員（利用人数）：　78名 | |
| 所在地：神奈川県横浜市鶴見区江ヶ崎町16-27 | | | |
| TEL：045-717-6313 | | ホームページ：https://www.kinoshita-hoiku.com/facility/egasaki | |
| 【施設・事業所の概要】 | | | |
| 開設年月日：2016年4月1日 | | | |
| 経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社 木下の保育 | | | |
| 職員数 | 常勤職員：１1名 | | 非常勤職員：１０名 |
| 専門職員 | 保育士：13名 | | 看護師　１名 |
| 栄養士：２名 | |  |
|  | |  |
| 施設・設備の概要 | （居室数）６室 | | （設備等）調理室 |
|  | |  |

1. 理念・基本方針

|  |
| --- |
| 保育理念  ・生きる力を創る  保育方針  ・協調性を持ち、他者を尊重し、認め合う心を育てる  ・のびのびと自己表現が出来る環境を提供する  ・試行錯誤をする中で考え創造し、自分で判断する力を養う  ・探索活動を大切にし、こどもの興味や関心に寄り添う |

1. 施設・事業所の特徴的な取組

|  |
| --- |
| “あそびはまなび”を掲げ、近年注目されている非認知能力を無理なく伸ばす学びの活動が遊びであると考え、子どもがそれぞれの年齢で一番やってみたいと思うこと、子どもが思い切り遊びこむことを通じて、何が育っていくのか、どうずれば学びの機会につながるのか、保育者は考え保育につなげている。  保育ではコーナー保育、異年齢保育の実践及び本物を体験することを行っている。 |

⑤第三者評価の受審状況

|  |  |
| --- | --- |
| 評価実施期間 | 令和６年4月12日（契約日）　～  令和7年2月1２日（評価結果確定日） |
| 受審回数（前回の受審時期） | 1　回（　令和元年度） |

⑥総評

|  |
| --- |
| ◇特長や今後期待される点  ＜特に評価の高い点＞  【自ら遊び場を選べるオープンな環境構成により、子ども同士の関わりを促し豊かな遊び文化を創り出している】  フロアー毎に各保育室がオープンになり、室内のコーナー毎に保育士が配置され遊びの援助をする環境の中、子どもたちは保育室内を自由に行き来し、遊びたいコーナーを選びながらトラブルなく主体的に遊べている。子どもが自由に動く環境の下、年下の子が上の子に憧れたり、年上の子が下の子に思いやりをもって接したりといった、子ども同士の（特に異年齢の）関わりが促され、子どもの成長や遊び文化の醸成に大きく寄与している。また職員間では、子どもの様子や成長について毎週の会議で共有している。子どもの主体性と子ども同士の関わりを促す空間的・物的・人的環境により、豊かな遊び文化を継承していってほしい。  【子どもの発達と興味・関心をふまえた環境設定により子どもたちが主体的に生き生きと遊びこめている】  子どもの発達と興味・関心をふまえたコーナー保育の環境設定により、子どもたちが主体的に生き生きと遊ぶことができている。例えばせいさく遊びをするコーナーでは、子どもたちが使用した後の片づけまで想定して教材や材料の配置が区分けされており、子どもたちは自由にそれらを使い次に遊ぶための意欲を持ちながら片付けることができる。またブロック遊びのコーナーでは、継続的に作れる場や完成したものを展示する場所が設定されており、子ども同士で認め合ったり、保護者にも見てもらったりすることで、子どもたちは達成感を味わうことができる。子どもの主体的な遊びと経験を育む遊び空間と、そこをとことん使う遊びの時間設定が、子どもたちの主体的な遊びを保障し、保育室は生き生きとした生活の場となっている。  【保育と調理との連携により、園全体で食育に取り組んでいる】  毎月の食育会議によりさまざまな食育への取り組みが計画され、保育の中で実施されている。例えば栽培では、子どもたちが希望する野菜を栽培、生育を観察した上で、実りを収穫し、それを給食の食材として使用することで食への関心を高めている。食事では、座席シートを作成し、席の取り合いのトラブルなく、一緒に食べたい友だちと同席できるようにしている。配膳においても５歳児はビュッフェ形式で自分の食べたい量を盛り付け、３・４歳児は盛り付けられた物を自分でトレーで配膳というように、子どもの意欲と主体性を育む工夫をしている。調理員が保育士と連携し配膳方法や箸の持ち方等を掲示物で知らせたり、「明日の献立メニュー」表を子どもたちと一緒に作成したり、園全体で食育に取り組んでいる。  ＜さらなる改善が望ましい点＞  【現在の良好な保育を土台にして、保育の意識化・言語化に取り組んでほしい】  子どもたちが思い思いに遊びを選べるコーナー保育の環境設定、日々繰り出す散歩、子どもの活動や１日の様子を振り返りとともに伝える「デイリー」記録…。子どもの活動や保育士の環境づくり・発信という面でみると、当園にはいくつもの力強い実践がある。そしてそのどれもがそれほど力まずに普通に行われていることが素晴らしい。こうした良好な状態を土台にした発展的な課題ということであげるとしたら、こうした実践の裏にある保育の意図への自覚と、その言語化が今後の課題といえるのかもしれない。現在の充実した保育の意味やそこにかける思いを一度言語化し共有しておくと、今後担い手や時代が変わったときの確かな支えになる。また現状においても、保護者により強く当園の保育の良さを伝えるツールにもなるだろう。現在の良好な保育の意識化・言語化にも期待したい。  【子ども同士の関わりと育ちに目を向けた生き生きした記録を、次の保育への力にしてほしい】  現在力を入れて毎日作成している「デイリー」記録は、指針が求めている「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」に基づいたエピソードの振り返りが丁寧に記録された充実した内容になっている。そこには活動の中での子どもの様子やそこにこめた保育者の保育の思いが写真とともに記されている。毎日の記録は大変だが、この記録によって保育士の子どもを見る力、保育を計画する力が育まれてきたこともよくわかる。ここであえて今後の発展的な課題をいえば、この活動の中で子ども同士のどんなやりとり・関わりがあったのか、そこでどんな育ちがあったのかといった、子ども同士の関わりに力点を置いた観察と記述だ。現状に加えて、子どもがどんなふうに関わり、喜び、学んでいたかという記述があれば、その記録はより生きたものになり、次の保育への力になるだろう。  【空間的な環境の工夫で、子ども同士のさらなる関わりとダイナミックな遊びを実現してほしい】  さまざまなコーナーが充実した当園の保育環境は、子どもの自由な選択と伸び伸びとした遊びこみを可能にしている。こうした良好な現在の環境を土台にした発展的な課題として考えられるのは、現在活用できていない空間的な環境の工夫により、子ども同士の関わりをさらに広げる活動が展開できないかということだ。例えば現在の食事コーナーを空いている時間に有効活用し、子ども同士が関わりながら遊びを大きく発展させられる（積み木などの）遊びコーナーにするなど、ダイナミックな活動の場がつくれれば、現状の遊び文化にもう一つ厚みが加わる。コーナーでの遊びこみの経験で、見通しをもって遊ぶことができる当園の子どもたちなら、大きな空間も上手に協力して使えるだろう。空間的な環境のさらなる工夫と活動の発展を期待したい。 |

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

|  |
| --- |
| 今回、第三者評価を行わせていただき、まだまだ運営・保育として至らない部分があることが分かり、より良い運営・保育を行うにあたり次に繋げていく課題が見える貴重な時間となりました。また、私たち自身が当たり前のように行っていることが実は他園とは違う良いところであったり、良い特色だったりとこの機会でなければ気づけないことも知ることが出来ました。職員が積み重ねて、築き上げた良いところをより保護者の方に自信を持って伝えていこうと思いました。  次の第三者評価にはまたより進化した運営・保育が行えるように職員全体で見直しながら日々努めていきたいと思っております。 |

⑧第三者評価結果

　　別紙２のとおり